

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年4月19日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
4月23日（土） 13:00～16:15	オンライン開催	公開シンポジウム 「孤独・孤立と『つながり』の再生」
4月23日（土） 16:15～17:45	福岡国際会議場 ※	公開シンポジウム 「口腔に関連した新型コロナウイルス感染症の諸問」
5月5日（木・祝） 13:30～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「中等教育からはじめよう！ジェンダー平等—誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして—」
5月7日（土） 13:30～16:30	オンライン開催	学術フォーラム 「リスク認知と教育」
5月9日（月） 12:30～18:00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） もしくはオンライン開催	公開シンポジウム 「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」
5月10日（火） 13:00～16:50	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「2022年国際光デー記念シンポジウム～中堅・若手研究者が語る光科学技術の未来～」
5月21日（土） 13:00～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「ポストコロナ時代に求められる看護系人材」
5月24日（火） 13:00～17:10	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「チバニアン、学術的意義とその社会的重要性」
5月31日（火） 10:00～17:30	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） もしくはオンライン開催	公開シンポジウム 「第34回環境工学連合講演会」

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、ハイブリッド開催を考慮

孤独・孤立と『つながり』の再生

開催趣旨:

急速な社会変容と個人の生き方の多様化が進む中で、孤独・孤立の課題への関心が増えています。近年の新型コロナウイルス感染症の広がり、この課題の重要性をより強く認識させるものでもありました。今回のシンポジウムでは、内閣官房孤独・孤立対策担当室が3月に取りまとめる予定の孤独・孤立に関する全国実態調査の結果について報告をいただきます。さらに、「つながり」の再構築にむけてNPO・ボランティアの視点から課題を提起し、格差・分断、ジェンダー、地域・社会福祉協議会との関わりで議論を深めます。

日時: 2022年4月23日(土) 13:00~16:15

場所: Webex (ウェビナー)によるオンライン開催

主催: 日本学術会議 社会学委員会 経済学委員会 合同 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会/同 社会学委員会 社会福祉学分科会

お問い合わせ: 須田木綿子 yukosuda(a)toyo.jp
(a)を@に書き換えてお送りください。

参加申込

無料&どなたでもご参加いただけます。定員800名。
下記URLからお申込みください(4月20日締め切り)。
当日までにURLをお送りします。

<https://forms.gle/zpncNnUyL8ejqHHG8>

内容:

- 13:00 趣旨説明
- 13:10~13:50 孤独・孤立に関する全国実態調査の結果について
登壇者調整中 (内閣官房孤独・孤立対策担当室)
- 13:50~14:20 個人化の時代の「つながり」:エピソード・ボランティア
須田 木綿子 (日本学術会議連携会員、東洋大学社会学部教授)
- 14:20~14:50 人と組織をつなぐ:あきたパートナーシップの取組
畠山 順子 (特定非営利活動法人あきたパートナーシップ理事長)
(休憩)
- 15:00~15:45 指定討論
格差・分断の視点から:宮本 太郎 (日本学術会議特任連携会員、中央大学法学部教授)
ジェンダーの視点から:大沢 真理 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
地域・社会福祉協議会の視点から:野口 定久 (日本学術会議連携会員、
日本福祉大学名誉教授、佐久大学人間福祉学部教授)
- 15:45~16:15 総合討論
進行 和氣 純子 (日本学術会議第一部会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授)

日本学術会議公開シンポジウム

「口腔に関連した新型コロナウイルス感染症の諸問題」

主催：日本学術会議歯学委員会 病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会

共催：日本口腔科学会



令和4年(2022年)

福岡国際会議場

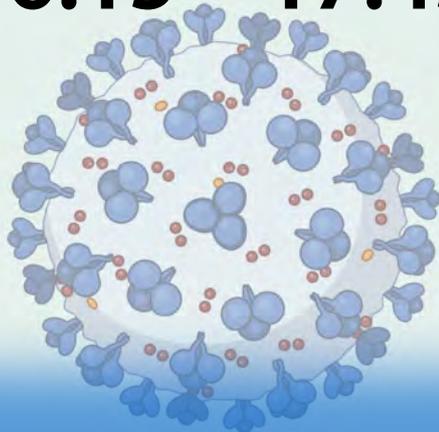
(福岡県福岡市博多区石城町2-1)

(新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、ハイブリッド開催を考慮)

4月23日(土)

16:15~17:45

新型コロナウイルス感染症の対応が現在も求められている状況において、歯学・歯科医療が新たに直面している諸問題を整理し、今後なすべき取組等につき議論する機会としたい



4月28日~5月31日オンデマンド配信決定!

<http://www.congre.co.jp/jss76/symposium/index.html>

プログラム

挨拶：市川 哲雄(日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

講演

座長：山下 喜久(日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院教授)

後藤 多津子(日本学術会議連携会員、東京歯科大学主任教授)

『口腔細菌と全身疾患の関連』

山崎 和久(理化学研究所生命医科学研究センター客員主管研究員)

『口腔・栄養面からの新型コロナウイルス感染対策』

花田 信弘(鶴見大学名誉教授)

『口の中の診断・治療と新型コロナウイルス対策』

星 和人(東京大学大学院医学系研究科教授)

総合討論

進行：中村 誠司(日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院院長)

村上 伸也(日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院歯学研究科教授)

討論者：山崎 和久

花田 信弘

星 和人

山下 喜久

樋田 京子(日本学術会議連携会員、北海道大学大学院歯学研究院教授)

林 美加子(大阪大学歯学部附属病院 病院長)

挨拶：村上 伸也



bio
RENDER



日本学術会議 公開シンポジウム

中等教育からはじめよう！ジェンダー平等

—誰一人取り残さない、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざして—

中等教育に進学する時期の子どもたちは、発達段階という観点から見れば、ちょうど第二次性徴期を迎え、性や他者との深いかかわりを意識するようになり始めます。また、学校教育のカリキュラムという観点から見れば、進路にかかわって理系か文系かの選択を迫られるようにもなります。性犯罪・性暴力の防止や女子生徒の理系進学への支援といった、日本で見られるジェンダー不平等の改善策を推進するためには、中等教育におけるジェンダー平等教育が大きな鍵を握っていると考えられます。

そこで、本シンポジウムでは、日本の中等教育におけるジェンダー平等教育の現状と課題について、国際比較を通して、また歴史的考察を通して明らかにします。シンポジウムの後半では、中等教育のジェンダー平等教育に関する好事例を、実際に実践している方々から具体的に紹介していただきます。

日時 2022年5月5日(木・祝)
時間 13:30~17:00 オンライン開催

【司会】	岡部 美香 (日本学術会議会員 大阪大学)
【開会挨拶】	杉山 久仁子 (日本学術会議会員 横浜国立大学)
【趣旨説明】	原田 範行 (日本学術会議会員 慶応義塾大学)
【講演1】	「グローバルなジェンダー指標から見た日本の中等教育と それを取り巻く環境の課題」 畠山 勝太 (NPO 法人サルタック)
【講演2】	「日本の中等教育におけるジェンダー平等の過去・現在・未来」 木村 涼子 (大阪大学)
【実践事例紹介1】	「他者とともに生きる身体と心を育てる —役割を限定しないフォークダンス授業の実践」 君和田 雅子 (お茶の水女子大学附属中学校 教諭)
【実践事例紹介2】	「学校の日常から考えるジェンダー平等教育」 工藤 洋子 (大分県立別府鶴見丘高等学校 教諭)
【実践事例紹介3】	「地方の中学生・高校生の進路選択におけるジェンダー平等の課題」 松岡 佳奈 (大阪大学 人間科学研究科 博士前期課程1年) 寺町 晋哉 (宮崎公立大学)
【閉会挨拶】	野尻 美保子 (日本学術会議会員 高エネルギー加速器研究機構)

お申込み



お申込みは、左のQRコードまたは下のGoogleフォームURLからお願いいたします。
5月1日までに申し込みいただいた方に、5月2日に参加方法をメールにてお知らせいたします。
<https://forms.gle/LnDWGRpuBgHSAusR8>

- 【主催】 日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会
日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
日本学術会議第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
- 【共催】 日本教育学会・教育関連学会連絡協議会
大阪大学人間科学研究科
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)
- 【後援】 全国ダイバーシティネットワーク

参加費無料
事前申込み制
定員 500名



日頃「リスク」という言葉を聞く機会が多いが、「リスク」の考え方を社会全体のものとするには、日本の教育課程の中でリスクにかかわる教育を行う必要がある。本フォーラムでは、リスクの概念、リスク評価の方法、基準値の持つ意味、教育の場でのリスク教育の現状と国際的動向を踏まえつつ、「リスク教育」の必要性やリスク認知の方法などについて議論し、初等・中等教育への「リスク教育」の導入のあり方を多角的に討論する。

日本学術会議主催
学術フォーラム

リスク認知と教育

日時

2022年5月7日(土) 13:30~16:30

場所

オンライン開催 (Zoomウェビナー)

申込方法

専用フォームからのお申し込み

下記URL又は右のQRコードよりお申し込みください。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>



プログラム

【総合司会】石塚真由美 日本学術会議第二部会員/北海道大学大学院獣医学研究院教授

【総合司会】工藤由貴子 日本学術会議連携会員/和洋女子大学総合研究機構特別研究員

開会の挨拶

13:30-13:35 那須民江 日本学術会議連携会員/中部大学客員教授/名古屋大学名誉教授

講演

【座長】高井伸二 日本学術会議第二部会員/北里大学名誉教授

【座長】辻佳子 日本学術会議連携会員/東京大学環境安全研究センター教授

13:35-14:00 リスクの本質を考える

野口和彦 日本学術会議連携会員/横浜国立大学IASリスク共生社会創造センター客員教授

14:00-14:25 「基準値」はどのようにして設定されるか

青木康展 日本学術会議特任連携会員/国立環境研究所名誉研究員

14:25-14:50 初等・中等教育におけるリスク教育

大藪千穂 岐阜大学副学長

14:50-15:00 休憩

15:00-15:25 「リスク認知」に関する教育現場の現状と課題

山本孔紀 埼玉大学教育学部附属中学校教諭

15:25-15:50 リスクの理解と限定合理性

中谷内一也 同志社大学心理学部教授

15:50-16:25 総合討論

閉会の挨拶

16:25-16:30 浅見真理 日本学術会議第三部会員/環境学委員会委員長/
国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官

共催 | 環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会、農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同食の安全分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会、食料科学委員会獣医学分科会、環境学委員会環境思想・環境教育分科会

お問い合わせ (内容に関するお問い合わせ) 中部大学生命健康科学研究所 那須民江
E-mail: tnasu23@med.nagoya-u.ac.jp
(その他お問い合わせ) 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当
Tel: 03-3403-6295

日本学術会議ホームページ
<https://www.scj.go.jp>

参加無料

どなたでも
参加できます



自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか

日時 令和4年5月9日(月) 12:30~18:00

会場 日本学術会議講堂からハイブリッド開催 もしくはオンライン開催

開催趣旨

自然災害を取り巻く環境として、時代とともに要因となるハザードや、災害を受ける社会の様式が急激に変化してきている。また、COP26 など地球温暖化に関する国際的な枠組みの議論かが本格化している。現在、改めて大きな時代認識を踏まえて自然災害を取り巻く環境の変化、対応及び今後の在り方を考えることは有意義であろう。今回のシンポジウムとしては、地球温暖化に伴う気候変動や地形の改変に伴う土砂災害など人類の活動により、災害要因となるハザードや、災害を受ける側の社会環境がどのように変化し、対応をしてきたのかに注目して、情報交換と議論を行うことにより、今後の防災に向けた情報として共有したい。関連する専門家・学協会からの多くの発信を期待し、有意義な機会としたい。

主催

日本学術会議 防災減災学術連携委員会(予定)
防災学術連携体(62学協会)

参加費 無料

申込方法

下記のフォームからお申込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S79677929/>



当日の発表資料は、後日、防災学術連携体のホームページに掲載いたします

<https://janet-dr.com/>

問合せ先:

一般社団法人 防災学術連携体
〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイヒルズ2階
電話: 03-3830-0188
ファックス: 03-5876-8463
mail: info@janet-dr.com

プログラム

時間	内容	講師
	司会	日本学術会議連携会員 田村和夫・永野正行
12:30	開会挨拶・趣旨説明	日本学術会議会員、防災減災学術連携委員長 米田雅子
12:35	来賓挨拶	内閣府統括官(防災担当) 榊 真一
12:40	基調講演1 「人新世と自然災害～地質学から考える」	平 朝彦 東京大学名誉教授、海洋研究開発機構顧問
13:00	基調講演2 「人新世と自然災害～地球環境から考える」	安成哲三 総合地球環境学研究所、京都気候変動適応センター長
13:20	学会からの発表	
13:20~14:40	セッション1:地球・地質分野からみた環境変化と災害	
	福井県水月湖年縞堆積物から読み解く完新世後期の災害史	日本第四紀学会 鈴木克明
	気候変動にともなうサンゴ礁の変化とそれによる多様な影響	日本地理学会 山野博哉
	衛星を利用した海面と海底火山噴火活動の関係解析	
	-西之島、福岡ノ場、クラカタウ島を例として	日本リモートセンシング学会 作野裕司
	地形・地質から読み解く自然災害の変化と応用地質学的対応(仮)	
		日本応用地質学会・日本地質学会 稲垣秀輝・高見智之
	熱海土砂災害の盛土崩落の解明への古生物学研究の適用	日本古生物学会 北村晃寿
	地図等から読み解く自然環境への人為の影響と災害リスクの変化	日本地図学会 小荒井 衛
	気候変動が山地の斜面崩壊に与える影響	地理情報システム学会 小口 高
	人新世における地形災害のリスク変化と地形学の役割	日本地形学連合 松四雄騎
14:40~16:00	セッション2:気象および地域環境の変化と防災	
	地球温暖化による極端気象と災害ハザードの変化	日本気象学会 竹見哲也
	豪雨災害外力の増大に及ぼす流域特性の影響について	土木学会 小松利光
	水害リスクが高い氾濫平野における宅地・商工業地等の開発による人的・物的被害の増大	
		日本自然災害学会 山本晴彦
	水害受容社会の可能性	水文・水資源学会 風間 聡
	安全はカネで買うもの	地盤工学会 東畑郁生
	震災・水災・土砂災害等の複合災害とレジリエントな建築・まちづくり	
		日本建築学会 久田嘉章
	農村の変化と自然災害	農村計画学会 柴田 祐
	「人新世=都市の時代」と自然災害リスク(仮)	都市計画学会 加藤孝明
16:00~16:10	休憩	
16:10~17:00	セッション3:発災後の対応における環境変化	
	救助活動に関わる環境の変化(仮)	日本地震工学会 小山真紀
	自然災害を取り巻く環境の変化と災害医療対応の進展	日本災害医学会 近藤久禎
	東日本大震災における「不均等な復興」と復興政策の課題	日本地域経済学会 除本理史
	中小規模自治体の平常業務の実態を踏まえた災害廃棄物対策に関する研究(仮)	
		廃棄物資源循環学会 鈴木慎也
	阿蘇地域における地産資材を活用した災害復旧の取り組み	日本緑化工学会 内田泰三
17:00~18:00	セッション4:自然災害・感染症と人々の暮らし	
	気候変動・自然災害の人々の暮らしと健康への影響	日本災害看護学会 神原咲子
	生存のランドスケープ~生命・生業・生活を支えるグリーンインフラからのアプローチ~(仮)	
		日本造園学会 木下 剛
	防災と福祉を繋ぐインクルージョン・マネジメントの活動	地域安全学会 辻岡 綾
	COVID-19禍におけるプロセス産業のリスク管理	安全工学会 石丸 裕
	SDGsと防災教育	日本安全教育学会 藤岡達也
	超高齢社会における複合災害への対応	日本公衆衛生学会 安村誠司
18:00	閉会挨拶	防災学術連携体代表幹事 大友康裕



International
Day of Light
16 May

公開シンポジウム



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

2022年 国際光デー記念シンポジウム

～中堅・若手研究者が語る光科学技術の未来～

主催 日本学術会議総合工学委員会ICO分科会 共催:国際光年協議会

協賛 公益社団法人応用物理学会、一般社団法人日本光学会、一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人レーザー学会、公益社団法人日本分光学会 (含 予定)

我が国における「国際光デー」(5月16日)の記念行事として、近い将来の光科学技術を担うと期待される中堅・若手の研究者が、同分野の未来を展望するシンポジウムを開催する。これにより、この分野の研究者のみならず、学生や一般市民が、同分野の意義について理解を深めることを期待する。

日時 令和4年5月10日(火) 13:00～16:50

場所 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34 千代田線乃木坂駅5番出口)
(ハイブリッド開催)

プログラム

司会 笹木 敬司 (北海道大学電子科学研究所 教授)

13:00 開会挨拶

荒川 泰彦 (東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任教授)

13:05 講演1: 光量子コンピュータの未来

武田 俊太郎 (東京大学工学系研究科 准教授)

13:30 講演2: 精密分子分光のこれまでとこれから

岩國 加奈 (電気通信大学コヒーレント光量子科学研究機構 助教)

13:55 講演3: 光格子時計の開発と測地応用に向けて

高本 将男 (国立研究開発法人理化学研究所開拓研究本部 専任研究員)

14:20 講演4: スマートフォニック結晶レーザー

メーナカ デゾイサ (京都大学工学研究科附属光・電子理工学教育研究センター 講師)

司会 野田 進 (京都大学工学研究科 教授)

15:00 講演5: 集積フォトンクスに基づく光波合成・検出素子の新展開

種村 拓夫 (東京大学工学系研究科 准教授)

15:25 講演6: トポロジカルフォトンクス: 純粋数学が与える光学の新しい潮流

雨宮 智宏 (東京工業大学科学技術創成研究院 助教)

15:50 講演7: フォノンエンジニアリングの創成

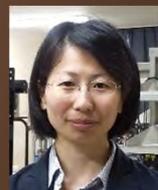
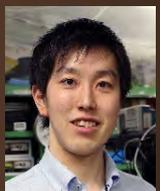
野村 政宏 (東京大学先端科学技術研究センター 准教授)

16:15 講演8: 深紫外光により生体を診る

熊本 康昭 (大阪大学工学研究科 助教)

16:40 閉会挨拶

美濃島 薫 (電気通信大学情報理工学研究科 教授)



現地参加の定員は170名(申込先着順)です。定員超過の際はオンラインとなります。
オンライン参加の定員制限はありません。いずれも以下のURLより申込み下さい。

<https://forms.gle/QKkBV8i9Smn6ycjJ7>

公開シンポジウム

「ポストコロナ時代に求められる看護系人材」

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会、健康・生活科学委員会看護学
分科会

日時：令和4年5月21日（土） 13:00～16:00

開催場所：オンライン開催

開催趣旨： 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックにより、持続可能な医療の在り方、とりわけ人材育成のあり方が重要性かつ喫緊の課題となっている。看護職は保健・医療・福祉の多様なシステムにおいて、健康課題をもつ様々な人々に対し、フロントラインとして予防や感染対策にあたっており、その存在意義がクローズアップされている。

COVID-19 は病原体というミクロのシステムから医療崩壊や介護崩壊、経済・産業の危機など、様々な社会システムの危機へと連動しつつ拡大している。したがって、それぞれの課題は密接に関連して切り離すことができず、包括的にとらえ、社会全体で取り組む問題解決へのアプローチが求められている。

看護学は、人の生命を救う<キュア>と人を癒す<ケア>という行為を融合することにより心身の健康を向上させ、日々の営みを意義あるものとするよう専門的知識・技術を発展させてきた。危機の時代において、社会基盤の核となる人と人、人とモノ、人と環境の交流・相互性について、その在り方の見直しが必要とされており、看護の真価が問われ、さらなる発展が期待されている。

本シンポジウムでは、健康危機に直面している地域社会のニーズに着目し、自治体、地域、医療・介護の現場、専門制度や多職種協働の視点に立ち、ウィズ/ポストコロナ時代にどのような看護系人材が求められるか、そして、如何にして育成・確保するか、という中核的課題について議論する。

プログラム：

総合司会：神原 咲子（日本学術会議連携会員、神戸市看護大学看護学部教授）

13:00～13:20

開会挨拶

望月 眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）

武田 洋幸（日本学術会議第二部部長、東京大学執行役副学長）

主賓挨拶

文部科学省 高等教育局医学教育課 課長 伊藤 史恵 氏 (予定)

厚生労働省 医政局看護課 課長 島田陽子 氏 (予定)

趣旨説明

小松 浩子 (日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学学長)

講演 (敬称略)

13:20～13:40

1. 地域に求められる公衆衛生看護人材：地方行政の立場から

丹田 智美 (北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課地域支援担当課長)

13:40～14:00

2. 訪問看護から見据える看護人材：

藤田 愛 (医療法人社団慈恵会北須磨訪問看護・リハビリセンター所長)

14:00～14:20

3. 役割拡大が求められる高度実践看護師

塚本 容子 (北海道医療大学看護福祉学部教授)

14:20～14:40

4. 危機の時代の国際協働を推進できる看護人材

新福 洋子 (日本学術会議連携会員、広島大学副学長 (国際広報担当) / 広島大学大学院医系科学研究科教授)

* * *

15:00～16:00

総合討論

司会：

西村 ユミ (日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授)

小松 浩子 (日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学学長)

指定発言

西村 正治 (日本学術会議第二部会員、豊水総合メディカルクリニック / 北海道大学名誉教授)

本間 雅江 (読売新聞医療部)

仲上豪二郎 (東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻准教授)

千葉県市原市の地層「千葉セクション」が、国際基準の地層境界である「国際境界模式層断面とポイント (GSSP)」に認定され、約 77 万 4 千年前～約 12 万 9 千年前の地質時代の名称が「チバニアン」と名づけられることになりました。世界で認定された 74 カ所に、初めて日本の地層が選ばれたことになります。今回の決定に至る過程には科学者の努力だけでなく、地層が存在する市原市の協力も大きく貢献しています。



チバニアンの GSSP (国際標準模式層断面および地点) となった千葉県市原市養老川沿いの露頭。奥の階段の突き当たり付近で松山/ブリュヌ境界が見られる (撮影: 菅沼悠介)

本シンポジウムでは、高い関心を集めているチバニアンの決定における過程を振り返り、背景となる GSSP とは何かを含めて、その科学的な意義を紹介します。また、チバニアンの決定が及ぼす社会的な重要性についても議論します。

日 時：令和 4 年 5 月 2 4 日 (火) 13:00 ~ 17:10

場 所：日本学術会議講堂、他 1 室 東京都港区六本木 7-22-34

入場無料

本シンポジウムは、現地開催とオンラインによるハイブリッド形式で行います。申し込みは下記 URL、もしくは QR コードからおねがい申し上げます。
https://nws.stage.ac/scj_sympo220524/



主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会、地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会 INQUA 小委員会、東北大学学術資源研究公開センター総合学術博物館
 共 催：日本地球惑星科学連合、日本地質学会、日本古生物学会、日本第四紀学会、福井県立大学恐竜学研究所
 後 援：東京地学協会、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所、国際地質科学連合 (IUGS)、茨城大学

プログラム

- 挨拶
- 13:00-13:10 文部科学省挨拶
- 13:10-13:15 梶田 隆章 (日本学術会議会長・第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)
- 司会：益田 晴恵 (日本学術会議連携会員、大阪市立大学大学院理学研究科教授)
- 13:15-13:45 「Chibanian GSSP 承認に至る IUGS の役割と我が国の地質学研究における意義：シンポジウム趣旨説明に代えて」
 北里 洋 (日本学術会議特任連携会員、IUGS 執行理事、早稲田大学教育・総合科学学術院招聘研究員)
- 13:45-14:05 「学術会議の国際活動の重要性」
 高村 ゆかり (日本学術会議国際担当副会長・第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授)
- 14:05-14:35 「GSSPs - International Geostandards and Milestones in the History of Planet Earth」
 Stanley C. Finney (IUGS Secretary General, Professor, California State University at Long Beach)
- 14:35-15:00 「Recent development of Quaternary Stratigraphy」
 Martin J. Head (Vice-Chair of ICS Subcommittee of Quaternary Stratigraphy, Professor, University of Toronto)
- 15:00-15:30 「チバニアン GSSP の特徴と、その学術上の意義」
 岡田 誠 (茨城大学理学部教授)
- 15:30-15:45 休憩
- 15:45-16:15 「基礎自治体の立場からの学術研究支援について」
 小出 譲治 (千葉県市原市長)
- 16:15-17:05 総合討論
 司会：木村 学 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門アドバイザー)
- (1) 地学教科書に於ける取り扱いについて
 川辺 文久 (文部科学省初等中等教育局教科書調査官)
- (2) SDGs 実現のための地学教育の役割
 久田健一郎 (日本地学教育学会会長)
- 17:05-17:10 閉会にあたって
 堀 利栄 (日本学術会議第三部会員、愛媛大学副学長・大学院理工学研究科教授)

講演会会場アクセス
 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5 出口すぐ



第34回 環境工学連合講演会

環境工学の22世紀

2022.5.31 日

日本学術会議講堂 + オンライン開催

日 時

2022年5月31日(火) 10:00~17:30

参加費

無料 (講演論文集は、PDF版をメールにて配布いたします)

申込み

専用フォーム <https://rengo34.peatix.com/view>
よりお願いします



専用フォーム
スマートフォン用
QRコード

(定員 現地参加130名/オンライン参加500名・申込み先着順, 定員に余裕がある場合当日参加も受け付けます)

※新型コロナウイルス感染症の状況により完全オンライン開催に変更となる可能性があります

オンライン講演会
アクセス

上記フォームで申込後、
自動配信メールにてZOOMウェビナーおよび
講演会論文集へのリンク情報をお送りします。

問い合わせ先

日本化学会 事務局 環境工学連合講演会担当 (E-mail: env_safe@chemistry.or.jp)

主 催

日本学術会議土木工学・建築学委員会

共 催

化学工学会、環境科学会、環境資源工学会、空気調和・衛生工学会、
資源・素材学会、地盤工学会、静電気学会、大気環境学会、土木学会、
日本LCA学会、日本化学会(幹事学会)、日本機械学会、日本建築学会、
日本水道協会、日本セラミックス協会、日本鉄鋼協会、日本土壌肥料学会、
日本分析化学会、日本水環境学会、廃棄物資源循環学会

タイムテーブル

開会 (10:00~10:15)

開会挨拶:

田辺 新一(日本学術会議第三部会員/早稲田大学)
米田 雅子(日本学術会議第三部会員/東京工業大学)

招待講演

地球環境・生活環境1 (10:15~11:15)

座長: 八重樫咲子(土木学会/山梨大学)

環境地盤工学分野の創生と現在、そして22世紀に向けて
遠藤 和人(地盤工学会/国立環境研究所)

環境問題解決に向けた最先端の土壌肥料学分野と
今後の展開
仁科 一哉(日本土壌肥料学会/国立環境研究所)

健全な水循環を実現する環境工学テクノロジー
山村 寛(日本水環境学会/中央大学)

地球環境・生活環境2 (11:25~12:25)

座長: 梅村知也(日本分析化学会/東京薬科大学)

人口減少社会における持続可能な下水道への挑戦
~産官学による新技術開発と地域課題の解決~
藤原 拓(土木学会/京都大学)

化学成分に着目したPM2.5の発生起源解析
池盛 文数
(大気環境学会/名古屋市環境科学調査センター)

22世紀の機器分析
佐々木 直樹(日本分析化学会/立教大学)

基調講演

基調講演 (13:30~14:00)

座長: 水川 薫子(日本化学会/東京農工大学)

環境に優しい有機合成法を目指して
石原 一彰(日本化学会/名古屋大学)

招待講演

カーボンニュートラルと資源循環1 (14:10~15:50)

座長: 一ノ瀬 俊明(環境科学会/国立環境研究所)

22世紀のプラスチックリサイクルを考える
熊谷 将吾(廃棄物資源循環学会/東北大学)

持続的熱利用技術の未来
齋藤 潔(日本機械学会/早稲田大学)

炭素循環による持続的な食料生産への一歩
中井 智司(化学工学会/広島大学)

カーボンニュートラル・ウェルネス建築デザインを支える
エビデンス
伊香賀 俊治(日本建築学会/慶應義塾大学)

未来社会に向けたデータ駆動型資源循環システム
松本 亨(環境科学会/北九州市立大学)

カーボンニュートラルと資源循環2 (16:00~17:20)

座長: 醍醐 市朗(日本鉄鋼協会/東京大学)

22世紀を支える鉄鋼業の価値と課題
畑山 博樹(日本鉄鋼協会/産業技術総合研究所)

資源利用に関わる多様なサプライチェーンリスクの
可視化にむけて
松八重 一代(日本LCA学会/東北大学)

資源循環促進に向けた物理選別技術開発の将来
大木 達也(環境資源工学会/産業技術総合研究所)

非鉄製錬業の金属資源循環への貢献
柴田 悦郎(資源・素材学会/東北大学)

閉会 (17:20~17:30)

第34回環境工学連合講演会の総括:

森口 祐一(日本学術会議連携会員/国立環境研究所)

開会挨拶:

前川 宏一(日本学術会議第三部会員/横浜国立大学)